



# つるがしま里山サポートクラブ 通信

第2号  
2021. 01. 01  
発行責任者  
小澤邦彦  
編集責任者  
杉山行汪

## 年頭のあいさつ 代表理事 小澤 邦彦

新年明けましておめでとうございます。この一年、東アジアにおける国際的緊張の高まり、武漢で発生したコロナウイルスが瞬く間に、世界に蔓延したようにグローバル世界のリスクを体験しました。家族の命を守るためには、身近な生活を安全にすることが不可欠で、地域のつながりの大切さを感じたこの一年でした。昨年のNPO法人つるがしま里山サポートクラブの活動は、前半はイベントを中止しましたが、コロナの流行に関わらず、自然の草木はいつものように大きく成長しています。このため、「市民の森」で散策が出来るように、クラブ員を中心に清掃、除草、倒木処理など維持活動を実施してきました。後半はコロナの状況に合わせ、小学校の子供達の自然体験学習や里山体験会などのイベントを開催しました。

市民の皆さんが市内に残された里山を通じて「自然の恵みを体感することが大切」と考えています。市内に多くの里山が保全されることは、私たちにとつても大きな希望であり、その維持に関して地元・関係者・市民の皆様とともに検討していきたいと考えています。

本クラブは、市内の里山を子供達に残したいという思いで活動を続けて参りましたが、私たちの夢は、皆さんのお力があればこそ実現するものと信じております。まずは目の前の課題にひとつひとつ着実に取り組んでいきましょう。どうか皆さん、今年もよろしくお願ひします。新しい年が更に良い年になるよう祈念致しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 年間の活動について 高倉の森の活動が新聞で紹介されました

昨年の一年間の活動は、コロナの影響による活動制約の中で、市民の森の維持活動が継続出来たことや市内のイベント中止が続いた事からか、ボランティア体験の参加者や清掃活動に市民の方々の体験参加者が増えました。このように参加者が増えていくことを期待したいものです。

また、NPO法人一二三富の会との連携活動、里山サポートクラブもろやまの設立など、周辺の市町に里山保全活動の仲間が広がったことは、大変うれしいことです。

クラブの活動については、彩の国市民活動サポートセンター便り、読売新聞で紹介されました。

そうしたことなどから、うれしいことに以前から一緒に活動していた仲間を含め新会員が8名も増加しました。新会員の増加により、新たな活動分野の拡大が期待されます。これからの取り組みとして、春のタケノコによるメンマ加工の取り組み、鶴二地域支え合い協議会の藤中の校庭除草のお手伝い、地主さんのご協力による倉庫の設置、遊休農地の活用などの取り組み等、多くの取り組みが試みられています。また、農大跡地などで計画されているの「樹林地」に関して、新たな展開が検討されています。本年は、これまでの活動に加え、新たな取り組み、多くの活動が動く予定です。興味ある活動に参加いただき、楽しい一年を送りましょう。



## 10月、11月、12月の主な活動

10月は高倉整備に34名の参加者があり、森はおおいに賑わいました。野ざらしであった軽トラにテント屋根を設置しました。鶴ヶ島から外洋へゴミを出さない取組としての大谷川クリーン大作戦は16回目となりました。わがクラブの目的は里山環境を次世代に引き継ぐことであり、藤小3年生への野外支援活動は継続していきたい。



11月はコロナの関係で開催できなかった里山体験会を今年初めて実施。検温実施、マスク着用、3密を避けての開催となり、子ども達100名、大人70名の参加で秋の一日を楽しみました。栄小との森での学習会は今年で2回目となり今後も継続できればと思います。坂戸のプレーパークにも参加しました。



12月は借りる予定の倉庫前の庭の草刈りやけんちん汁による忘年会を開催し、門松教室の諸準備を整えて鶴ヶ島と坂戸で門松教室を開きました。



森の活動は3密になりにくいので、会員の出席率も高くなっています。コロナに負けずに新規会員獲得のチャンスを生かしましょう

## 10月～12月 実施

- 10/ 3(土) 高倉整備
- 10/12(月) 逆木軽トラ屋根設置
- 10/18(日) 大谷川クリーン大作戦
- 10/19(月) 藤小野外学習支援 (1回)
- 10/27(火) アペルト自然学習支援
- 10/30(金) 藤小野外学習支援 (2回)
- 11/ 7(土) 五味ヶ谷整備
- 11/14(土) 五味ヶ谷里山体験会
- 11/20(金) 栄小野外学習支援
- 11/21(土) につきいの森プレーパーク
- 12/ 5(土) 五味ヶ谷整備・忘年会
- 12/26(土) 門松教室(五味ヶ谷市民の森)
- 12/27(日) 門松教室(坂戸)

## 1月～3月 計画

- 1/ 9(土) 高倉整備
- 1/17(日) 木工教室
- 2/ 6(土) 五味ヶ谷整備
- 2/14(日) 小彼岸桜根巻作業
- 3/ 6(土) 木工教室
- 3/14(日) 高倉プレーパーク
- 3/28(日) 小彼岸桜畑へ移植

## 重要事項のお知らせ

11月1日、農大跡地が埼玉県より鶴ヶ島市へ移設されました。跡地内の緑地は約6.6haで市内に残された最後の貴重な樹林地となります。

市としては市民の皆さんの力も借りながら自然環境の保全を図っていききたいとの意向であり、当クラブとしても地元の皆さんとの関連、作業体制の問題など今後の大きな検討課題となっています。

## 会員紹介

### 小沼 英二さん

**クラブ参加** 50歳を過ぎてから友人に誘われ山登りを始め、山が面白くなっていた頃、市の広報紙で会員募集があり参加したところ、遠くの山に行かなくても自然が親しめる「市民の森」が身近なところにあることが分かり、自然の楽しさを感じられ、また、気楽な仲間がいることが18年間会員として継続してきた理由だろうと思います。 **里山出席日数** 私はメモ魔なので家での里山作業を除く出かけた里山活動回数を計算すると年平均で60～80日程度となっています。他のボランティアや趣味活動もいくつかありますが、最も多い回数となっています。 **今後の活動について** 加入当時から仲間の皆さんが多くいるということは20年近く継続していることになり、クラブ正会員の平均年齢は71.9歳となっています。そのため若い方の会員募集が必要ですが、高齢者のボランティア集団の先進事例を目指すのも人生100歳時代となる現代では一考ではないかと最近思うところです。



## 里山体験会について

吉井 優

日本各地で行われているプレーパークは、「子供たちが自分の責任で自由に遊ぶ」を目指しています。またプレーワーカーと呼ばれる「子供が自由に遊べる場をつくること」を担当する人材を配置しています。我々の行っているイベントでは、訓練されたプレーワーカーが存在せず、子供が自由に遊びを考案することなく、こちらで企画設置した遊び場で遊んで貰っています。つまりプレーパークもどきですので、「里山体験会」という名称で活動しています。

プレーパークもどきではありますが、市民の森の自然の中で、いろいろなことにチャレンジし、思い切り遊びまわることができますので、プレーパークの狙いである「様々な体験や交流を通して、子供たちに自主性や主体性やコミュニケーション能力を育んでもらいたい」につながると思います。

鶴ヶ島の里山体験会は、我々里山サポートクラブが倒木を排除し、篠竹や下草を刈り取り見通しのよい樹林地環境と、ゴミを拾い、ガラスなどの危険物を排除した河川環境を会場に設定しています。

里山環境は、各種生態系サービス（自然環境の中で動植物の生育によりもたらされる人間に必要な物質や環境）の発生源です。我々里山サポートクラブの目標は、里山から生まれる豊かな生態系サービスを、地域の未来に暮らす住民が享受できるように活動することです。具体的な活動では、市民の森の枯れ木や倒木を伐採し、若い樹木が育つ環境を作ります。下草を刈り明るい森づくりを行います。オオブタクサなど特定外来種の駆除を行っています。河川では、ゴミ拾いや流木排除を行い水の流れをなめらかにします。こうして整備された里山環境に子どもを呼び寄せ、自然体験をすることで、故郷の森と意識して貰います。大人になって、森がなくなる事態が発生した際、森の消失に反対してくれることを期待します。

里山体験会では、森に入ると、まず若い樹木の生長に合わせて基礎サービスである光合成による酸素の発生に気づいてほしいです。また枯れ葉に覆われた林床は、堆肥となり、豊潤な土壌を形成します。木陰と小川により、温度調整された調整サービスを体感することもできます。竹林の竹を使った竹細工や、タラの芽・茗荷などの森の恵みに触れて供給サービスを体験します。何よりハンモックや綱渡りなどで森を楽しむことは、文化的サービスそのものです。



ツリーイング

ハンモック

綱渡り

## 小学校の野外学習について

吉井 優

2016年に異動により藤小の校長となった向田校長先生の発案により3年生の担任から里山サポートクラブに野外学習支援の依頼があったのが、そもそもの始まりです。藤小の要望に応じて、大谷川の魚とりで特定外来種カダヤシの駆除を行ったり、森の動植物の生態について紹介しました。その後我々の得意技である竹細工とハンモック遊びを毎年行い、有意義な体験と森の楽しさを伝えていきます。毎年11月に開催してきた「森の発表会」は、藤金市民の森を会場に、児童が自分たちで調べた森の生態系について発表するイベントです。父兄や地域の大人も発表を聞きに来て、皆さん感激する発表会になりました。なお、その後向田校長が栄小学校に異動すると、五味ヶ谷市民の森で昨年からは5年生の野外学習が始まりました。参加した児童から毎年感想文をいただきますが、いろいろな発見があり好評です。

小学生に生態系サービスの説明はしませんが、市民の森を体験することは、様々な生態系サービスを体験することです。森の大切さを感じて豊かな心を持つ大人に育ってほしいものです。

## 小彼岸桜と夢の感動

春になるとあちらこちらに桜が満開に咲きます。

小彼岸桜との最初の出会いは、平成9年(1997年)4月に高遠へ桜見物に行き1本の苗木の購入でした。一般的に桜の増殖は接ぎ木が主流です。これを「挿し木」ではできないだろうかと思い、その増殖法に取りかかりました。試行錯誤をしながら三年間の歳月を費やし研究を重ねて独自の「挿し木増殖法」を開発しました。当時は東京都東村山市に在住。1人で「挿し木」植栽を始めているうちに協力してくれる人が徐々に増え「小彼岸の会」を設立し、都有地、市有地に「挿し木」の方法や植栽等々を普及し、更に1,000本植樹を目標に活動しました。やがて歳月が経ち、市道に植栽した桜が繁茂し、市役所の窓口部署との協働形態で街路樹(市道さくら通り)の剪定を行ないました。枝の剪定方法は「フラッシュカット」の方法を取り入れて実施し切口は5年できれいに塞がりました。この方法は次回に説明します。

その後は街路樹の剪定は後任の新会長に委ねて全長1.5kmに渡る桜並木へと成長し、今では東村山駅より「コミュニティバス」が開通し、市民に親しまれる新名所になりました。開花期に遠眺すると「花のトンネル」に見えて、植栽当時の夢が花開きました。会員の皆様も桜並木に自信が付き「小彼岸の会」の活動は更に2,000本目標へと弾みがつき「挿し木」植栽、定期巡回剪定と活動内容を広げて東村山市立の小中学校、公園、保育園、多摩湖堰堤下、都立公園、多摩湖遊歩道、空堀川馬頭橋右岸等にも植樹しました。その後、2,000本目標達成に残り数10本となった処で、私は「終の住処」を求めて鶴ヶ島市に移住を計画し、2年間迷い苦渋の決断をして平成28年4月に移り住みました。(次号へ続く)



さくら通りの小彼岸桜並木 前方は東村山駅

## 高倉の森整備活動に寄せる歌 (10月3日の活動を見学した「鶴ヶ島短歌クラブ」の方々より)

もういちど蛍とびかふ里山にせむと思ひて保全をすすむ  
切り開きて人の寄り来る空間に製材の音は天衝くばかりに  
倒木の道塞ぎたるをチェーンソーで刻みし衆は間なし喜寿とか

## 編集後記

「つるがしま里山クラブ通信」第2号をお届けします。創刊号はA4裏表の2頁でしたが、これを4頁にしました。それでもお知らせしたいことが載せきれないほどでした。里山サポートクラブの活動が多岐に渡っていることに改めて実感しています。号を重ねながら会員始め多くの方にクラブの活動を報告して参ります。皆様のご支援をよろしく願います。ホームページ：<http://www.satoyamasupport.com/>